

# シャロームだより

第38号

2018. 12. 21

すべての人に与えられる大きな喜び、救い主の誕生！



## ★ クリスマスおめでとう ★

### 1. 間もなく、クリスマス！幼子イエスが、世界の悲しみ、苦しみ、絶望の只中に、希望の光を灯します。

「シャローム平和のための祈りのセンターの意向」を共に祈りましょう。

嬉しいことに今回は多くの意向が寄せられました。必要なら、何回かに分けて使っていただいても良いと思います。

- ① 普天間基地の辺野古移設に関して、「沖縄に基地はいらない」という多数の沖縄県民の切実な願いを顧みず、安倍首相は、対話を呼びかける玉城沖縄県知事にも真摯に向き合うこともなく、ついには12月14日に辺野古の海への土砂投入を開始しました。私たちが沖縄の思いに耳を傾けて理解し、戦争の無い未来を作るため、諦めることなく誠実に行動を続ける勇気を頂くことができますよう祈ります。
- ② 外国人労働者受け入れ枠を広げる「改正入管法」が成立し、2019年4月1日に施行されます。現在でも、公立の小中高校に日本語指導が必要な生徒が4万4千人いますが、適切な日本語指導を受けている生徒は4人に1人です。この機会に、日本語指導を必要とする全ての子供・青年に必要なサポートが与えられ、適切な教育を受ける態勢が整いますよう祈りします。
- ③ 多数の医科大学入試において、女性や浪人生に対する不当な扱いがニュースになっています。性別などに関係なく全ての人が公平に教育を受け、社会貢献の活動が保障されますよう、また、女性の職場環境が改善などの法整備がなされ、私たちの意識も変えられますように。
- ④ 世界各地の難民、移住者のために祈ります。不安定な状況で、命を危険にさらしながら生きている

人々、社会から取り残され、排斥され、最も弱く無防備な立場にある人々を見捨てておくことはできません。自国主義が台頭し幅をきかせる今日、私たちが必要な情報を得て考え、難民や移民のサポートになる行動を起こして行くことができますよう、一人ひとりの心を、幼きイエスの誕生の光で照らし導いてください。

- ⑤ 第3回国連総会で世界人権宣言が採択されてから、12月10日で70年になりました。70年の間に、人権宣言に基づく法律の整備などは徐々に進んできましたが、意識の変化は、自分自身をはじめ、宗教団体を含む様々な組織や国家レベルに至るまで、人権宣言の精神が活かされる世界に到達するにはまだまだ遠い道のりがあると痛感させられます。聖霊の導きにより、私たちが、個人として、共同体として、世界人権宣言実現の道をあきらめず、妥協せず、歩き通すことができますよう恵みを祈ります。
- ⑥ ポーランドで開かれた COP24 において、12月15日に地球温暖化対策を進めるパリ協定実施のルールが決まりました。2020年から運用が始まります。目標は今世紀後半に世界の温室効果ガス排出を実質ゼロにすること、産業革命前からの気温上昇を2度未満から1.5度に抑えることです。世界各地で異常気象による災害が続出しているにも拘らず、世界第2の温暖化ガス排出国アメリカの協定離脱、これまで温暖化抑制にリーダーシップをとってきた国々の政権交代など、パリ協定の成果には不安な要素もあります。国を超え、人類社会が一団となってパリ協定の目標達成に向かうことが出来ますよう、どうか私たちを照らし、導いてください。
- ⑦ 憲法改定の動きは予定より遅れ、国民投票は早くても来年夏の参院選以降になる見通しです。これは日本国憲法のすばらしさ・美しさを更に学び、学びの輪を広げるまたとない時間です。どうか私たちがこの時間を有効に使い、国民投票に臨むことができますように。

## 2. 正平協全国集會に参加しました！

第40回日本カトリック正義と平和全国集會が、11月23日・24日の2日間、名古屋で開催され、シャローム委員会からはS. ルチア大城とS. ジュディス鎌田が参加しました。個人参加のS. クリステイン畑とも一緒でした。テーマは「共に生きる地球家族——今問われる私たちの選び、私たちの決意」です。(カトリック新聞12月2日号参照)

1日目は『世界のゆがんだ経済格差、その現実と原因』と題して羽後静子氏(中部大学大学院教授、国際政治学博士)による基調講演、ヨセフ・アベイヤ司教、シスター弘田鎮枝(メルセス会)によるシンポジウム(司会は松浦悟郎司教)が行われました。これは、テーマに沿って時代を概観する機会になったと同時に、評論家に終わることなく自分自身のものの見方、人の見方を顧み、自分のライフスタイルを変える促しを受ける機会ともなりました。「人は神に象って創られた」という信仰に基づく人間観・世界観が土台となります。会場は布池司教座聖堂。

2日目は16の分科会が、16の教会を会場に実施されました。学びたいテーマばかりで選択に困りましたが、最終的に、シスタールチアは第I分科会『移住者と日本社会やカトリック教会』、シスタージュディスは第16分科会『美しい若狭を守ろう～世界一の原発密集地域から』に参加しました。以下が

分科会の報告です。

### 第1分科会「移住者と日本社会やカトリック教会」S. ルチア

ここ数年、ベトナム人のシスターや修練者に接することが多く、テレビや新聞で技能実習生、外国人労働者受け入れといったニュースを見聞きするたびに、若くて明るいベトナムのシスター方の顔を思い浮かべていたので、この分科会のテーマに興味を持って参加しました。

分科会の目的は、移民問題に関心を深め、問題解決のための行動を計画すること、また、日本に暮らす外国籍の「移住者」についての情報を分かち合い、特に外国籍労働者・実習生の実情に関する情報の交換することです。パネリストは埼玉県のカトリック川口教会で、主にベトナム人の技能実習生の支援を行っているシスターマリア ランそして、横浜市で内科医として移民・難民の医療にたずさわっている山村淳平医師でした。参加者は約30人で司祭・修道者が多数参加していました。パネリストが提示した事例は、医療を受けさせてもらえず病に苦しむ入国管理センターの収容者、職場で怪我をしても何の保証も無く強制的に帰国させられる技能実習生、契約とは違う時給100円・月5万円以下の収入、妊娠すると帰国か堕胎を選ばなければならない女性たち、過労死、暴行等、重い内容のものばかりでした。パネリストの話聞いた後は7・8人のグループに分かれて、感想や自分の近隣での移住者に関する情報を分かち合い、移民・難民が直面している問題に対して、解決に向けた行動計画を立てるために討議を行いました。私のグループでは、北九州から来た男性は、教会で外国人信徒が急速に増えてきたので、どのように対応すれば良いかヒントをもらうために来たと言語、関東のある教会では外国人信徒の活動が活発で、毎年数十人単位の洗礼者がいるので、日本人は外国人信徒から学ぶことが多くある、といった分かち合いがありました。行動計画としては、この分科会で知った情報やビデオを教会などで分かち合うこと。移住者が日本語を学ぶことはあっても日本人が相手の国の言葉を学ぶという発想が無いので、教会の中で言葉を学ぶ機会を作ることや、ミサの聖歌や朗読を多言語にすること、そういった活動を通して交流を深め、悩みなどを話し合える関係性を互いにつくっていくことなどが提案されました。技能実習生の低賃金・長時間労働はニュースなどで知ってはいましたが、現代の日本でこのようなことが多数行われている現実に、自分の無知や無関心さ、日本人でいることの心苦しさを感じ続けた分科会でした。この後も毎日のように移民に関するニュースを目にし、12月13日には法務省より、2010年から2017年にかけて174人の外国人実習生（労働者として扱われない実習生も含まれる）が死亡したとの資料が出されました。その多くが20代30代の若者だということです。今後、移住者が増える中で、このような問題は増え、ますます身近なものになると思います。分科会で資料2冊「移民・難民の病をふせぐ」「歓迎されない外国人 日本社会の中で暮らす移住者たち」を頂きました。興味のある方はどうぞお気軽にお声をお掛け下さい。貸し出しいたします。

また、分科会で見たビデオは「技能実習生はもうコリゴリ～ベトナム人の声」という題名でユーチューブで見ることができます。また、以下の動画もユーチューブで見ることができます。ぜひ、視聴してみてください。会場はみこころセンター。

「入管でおきたこと～暴行、そして強制送還」／「収容と駆り方面状態で苦悩する日々」／「スリランカ難民申請者の集団送還」／「だまされるな！技能実習生 ビルマ編」／「だまされるな！技能実習生 ベトナム編」

### 第16分科会『美しい若狭を守ろう～世界一の原発密集地域から』S. ジュディス

日本は狭い国土に55基の原発がひしめいています。その中でも原発銀座と言われる若狭湾には15機が集中しており、その南に位置する京都市に住む私はもっと現場のことを学びたいと願っていたので、この分科会を選びました。会場の緑ヶ丘カトリック教会では、分科会開催のために教会を挙げて協力をしておられました。原発問題は教会の中でも様々な立場があり、小教区がまとまってこの取り組みに一致協力できたこと自体、取り組みの大きな成果であったと思います。約50人余りが集まり、小浜市からの僧侶、中嶋哲演師によるDVD「隠れ病む人々と歩む」(NHK 心の時代 Eテレ 60分)を鑑賞、次にご本人のお話を聞き、いのちを尊ぶ宗教者としての思いと、50年を超える生き方と活動から刺激をいただき、自分自身宗教者でありながら、いかに生き方も活動も中途半端かということを感じ知らされました。これから私たちSSNDシャロームも、日本のエネルギー政策を脱原発の方向へより速やかに転換させるよう、『新電力会社』について研究し、関電の電気を使わない選択肢について調べ、提案する、福島から避難して来られている方々と交流する機会を持つなどの活動を考えたいと思っ  
て帰ってきました。

2日目は5時からまとめと派遣ミサのために再び布池教会に集まりました。若者たちが前晚遅くまで話し合っ  
てまとめをしたこと、ミサをリードしてくれたことはパワーフルな体験でした。これまで3日間あった大会が2日になりましたが、その分密度が高く、仕事があっても参加しやすい大会になりました。毎年の開催が隔年になったことも準備に十分時間をかけられる良い結果になりました。

### 3. お知らせとお願い

- 「シャローム国際連帯の省察」1月はあります。12月26日に発送しますので、ご活用ください。
- シャローム委員会メンバーを募集しています。関心のある方はS. ジュディスまでご連絡ください。
- 「シャローム平和のための祈りのセンター」1月分の祈りの意向を募集しています。1月15日(月)までに本部オフィス、またはシスタージュディスまでお届けください。皆様が日ごろからお心にかけておられる思いや願いを是非「シャローム平和のための祈りのセンター」の意向として分かち合ってください。ご一緒にお祈りしてまいりましょう。